

AUD / JPY 豪ドル円 月次レポート

前月振り返りと2026年7月の相場展望

発行日

July 1, 2026

対象期間

6月実績 / 7月展望

通貨ペア

AUD / JPY

発行頻度

Monthly

6月末レート（終値）

112.495

▼ -1.62%（6月月間騰落）

6月高値

114.910

6月安値

111.237

RBA金利

4.35%

BOJ金利

1.00%

今月のハイライト

6月は114.35円から112.50円まで下落（月間-1.62%）。当社定点観測対象の主要5通貨ペア中で2番目に大きい下落幅（最大はEUR/USDの-2.01%）。日銀の利上げとRBAの据え置きが重なりキャリー解消の動きが進んだ

日銀は6月15～16日の会合で0.25%利上げを決定（0.75%→1.00%）したことで、日豪金利差は3.60ppから3.35ppに縮小。キャリートレード妙味の低下が意識され、豪ドル売り・円買い圧力が強まった

RBAは6月15～16日の会合で4.35%を全会一致で据え置き。2月・3月・5月の利上げ後、6月会合では政策金利を据え置いた。中東情勢を巡る地政学リスク後退を受けた原油価格下落が、インフレ再燃懸念を和らげた

地政学リスク後退を背景に資源価格が下落。豪州の主要輸出品である鉄鉱石・LNGを巡る需給見通しも弱含み、資源通貨としての豪ドルに売り圧力がかった

7月 基本シナリオ レンジ

110 - 115円

日豪金利差縮小とリスク環境変化が継続（確率50%）

日豪政策金利差

3.35pp

日銀利上げで前月比0.25pp縮小。当社観測対象5ペア中でも大きい水準

始値
114.347
6月1日

高値
114.910
月中最高値

安値
111.237
月中最安値

月間騰落
-1.62%
-1.852円

6月の相場動向

6月の豪ドル円は**114.35円でスタートし112.50円まで下落**（月間-1.62%）、当社定点観測対象の主要5通貨ペア中で2番目に大きい下落幅（最大はEUR/USDの-2.01%）。主な要因の一つは**日銀の0.25%利上げ（6月15～16日会合）**による日豪金利差の縮小（3.60pp→3.35pp）で、キャリートレード妙味の低下が意識され、豪ドル売り・円買い圧力が強まった。

RBAは6月15～16日の会合で**4.35%を全会一致で据え置き**。これまでの利上げの影響を見極める段階に入った。また原油や一部資源価格の下落が資源通貨としての豪ドルに売り圧力を加えた。月中高値114.91円は月初の水準であり、月後半は下押し圧力の強い展開となった。

主要イベントの影響

AU RBA 6月15～16日 据え置き（発表6/16）

- 4.35%を全会一致で据え置き
- 原油価格の落ち着きを受けてインフレ再燃懸念が後退
- 市場では次回会合での利上げ再開観測が弱まっている

JP 日銀 6月15～16日 利上げ

- 0.75%→1.00%へ0.25%利上げ
- 日豪金利差が3.60pp→3.35ppに縮小
- キャリー解消を伴い111.24円まで下押しした

6月の総括

6月の豪ドル円は、日銀利上げに伴うキャリー解消の動きと資源価格の軟化が重しとなり、当社定点観測対象の主要5通貨ペア中で2番目に大きい下落幅（-1.62%）を記録した。金利差が大きい通貨ペアであるため、日銀の利上げによる影響が出やすかった。7月は日豪金利差（3.35pp）はなお大きいものの、**RBAの利上げ見送り観測と日銀の追加利上げ観測**が意識される中、戻り売り圧力が続きやすい局面となる。

7月の注目ポイント

7月の焦点は①**8月11日 RBA会合（次回）**への期待形成（7月下旬に発表される豪州4-6月期CPIが、追加利上げ再開の判断材料となる）、②**7月31日 日銀会合**（追加利上げ観測は低確率だが示唆があれば豪ドル円に大きな下落圧力がかかる）、③**中国経済指標の動向**（豪州の主要輸出先。中国経済指標や資源需要動向が豪ドル相場にどう影響するか）の3点。日豪金利差（3.35pp）はまだ大きいですが、縮小方向が意識される中で上値の重い展開が続く見通し。

シナリオ別レンジ予測

強気	20%	RBA再利上げ観測・中国景気回復で豪ドル買い再燃	113 – 117円
基本	50%	RBA・日銀ともに据え置きで現水準付近を推移	110 – 115円
弱気	30%	日銀追加利上げ示唆・資源価格続落でキャリー解消加速	104 – 111円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
日銀が7/31に追加利上げを示唆	低	円高	金利差の大きい通貨ペアであるため、キャリー解消の影響を受けやすい。7月に追加利上げが示唆されれば、104～108円方向への下押しリスクが高まる
中国経済指標の大幅悪化	中	豪ドル安	資源価格の下落や中国景気の鈍化が、鉄鉱石・LNGを含む豪州資源輸出への需要見通しを弱めれば、豪ドルの重しとなる可能性がある
豪州4-6月期CPIの上振れ	低	豪ドル高	7月下旬発表。高インフレ継続なら8月RBAの利上げ再開観測が強まり、金利差縮小方向への歯止めとなり得る
地政学リスクの再燃・資源価格反騰	中	豪ドル高	地政学リスクが再び高まり、原油やLNG価格が上昇すれば、豪州の輸出環境改善を通じて豪ドル買い要因となる可能性がある。一方で、インフレ圧力の再燃はRBAの引き締め観測を強める可能性もある

7月の見通し

基本シナリオは**110～115円のレンジ推移**（確率50%）。日豪金利差3.35ppはまだ大きいですが、日銀の利上げ継続観測とRBAの据え置き姿勢という方向性の違いが、豪ドル円の上値を徐々に抑える可能性がある。**日銀の追加利上げ示唆**があれば大きな下落幅となりやすいペアであることには引き続き十分な注意が必要。弱気シナリオにも一定の注意が必要。

用語解説

RBA（豪州準備銀行）

Reserve Bank of Australiaの略称。現在4.35%（6月会合で据え置き）。2月・3月・5月に利上げを実施した後、6月会合では据え置いた。次回会合は8月11日。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。6月会合で1.00%に利上げ（1995年以來の高水準）。次回は7/31。追加利上げにより日豪金利差がさらに縮小するリスクに注意。

資源通貨としての豪ドル

豪州は鉄鉱石・石炭・LNGなどの**資源輸出国**。資源価格の下落は豪ドルの重しとなりやすく、中国経済の動向との連動性も高い。

キャッシュレート

RBAが設定する**豪州の政策金利**。現在4.35%。日豪金利差が大きいと、キャリートレードの影響を受けやすい通貨ペア。

キャリートレード / 巻き戻し

低金利通貨（円、1.00%）を借りて高金利通貨（豪ドル、4.35%）で運用し、**金利差3.35ppの収益を狙う取引**。日銀利上げ局面では、こうした取引の巻き戻しが豪ドル円の下落圧力となりやすい。

中東情勢と資源価格

中東情勢の変化は原油や資源価格を通じて、資源輸出国通貨の見通しや**中央銀行の政策判断**に影響を与えることがある。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報にかかる著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。